

受賞名：日工組社会安全研究財団賞

タイトル：いつか来る「その日」のために

氏名：森山 あかり

小学校名：島根県 大田市立川合小学校 五年

「じゃあ今日も行って来るよ。」

と、玄関先で今日も声が響きます。

私は、島根県に住んでいる小学五年生の女の子です。この土地は、春夏秋冬色々な景色が楽しめる場所です。特に山の景色が素晴らしく、春から秋にかけ多くの登山者がやって来ます。

私のお父さんは、日々この土地にくらす人達や、観光客のみなさんが安心して生活できるように駐在所で仕事をしています。お父さんはよく私の学校に交通安全教室や朝の見守りなどに来てくれます。そんな時は少しわくわくするけれど、きん張してしまいます。でも私はお父さんの姿を見るたびに地いきのみなさんにたよりにされてすごいと思っています。

お父さんは、この土地に異動してからしばらくして、山の危険場所をチェックしたり、体力を付けるために積極的に訓練するようになりました。私はしんどいだろうしすぐにやめかなと思っていたけれど、お父さんは訓練をへらすことなく、ずっと続けていました。

私ならしんどい事をやり続けるのはいやだと思うので、あきらめたり、少し手をぬいたりすると思います。私はお父さんがどうしてそこまで頑張るのか知りたかったので、どうしてしんどいことを手をぬかずに続けるのか聞いてみました。するとお父さんは、

「山の事故に対応するためにやっているんだよ、山の事故はいつ起きるか分からないから、訓練していないと役に立てないからね。」

と説明してくれました。

私はそれを聞いて、本当に起きるかどうかも分からない事のために一生けん命努力するお父さんは、すごいと思いました。制服を着て町に出て人の目に見える活動をしたり悪い事をした人を捕まえるお父さんとても素晴らしいと思うけれど、人に見えない努力をしていつか来るその日のために備えるお父さんを私は今まで以上にそんけいしました。

しばらくしたある日、山で一件の事故がありました。お父さんは皆で協力し、事故にあった人を助ける事が出来たそうです。家に帰って来たお父さんは汚れと汗でボロボロに見えたけど、とてもカッコ良かったです。

私は日々苦手な事や大変なことから逃げたくなったりすることがあります。でも、お父さんから頑張った事は絶対に自分の力になると学びました。私も辛い事から逃げるのではなく、お父さんの様に、何事も一生けん命取り組みたいです。

玄関先で声がします。今日もお父さんは訓練に向かいます。私が、

「いつてらっしゃい。」

と声をかけるとお父さんは必ず、

「じゃあ今日も行って来るよ。」

と笑顔で返してくれるのです。